

「新しい時代」を前へ「しんぶん赤旗」春の新紙面

多彩な紙面お届けします



学術・文化

旬の人が続々

文化面では学者から浪曲師、バレリーナまで旬の人が続々登場します。「登場」では幅広い分野で今注目の若手をクローズアップ。新企画「東西演芸散歩」は、関東・上方それぞれの古典芸能の旬の情報を伝えます。シリーズ「学問は面白い」では、人文・社会、自然科学など各分野の識者が学問の面白さを語ります。シリーズ「統制された文化」では、戦前の文化への統制を振り返り、今くむべき歴史の教訓を考えます。そのほか、「日曜インタビュ」に「金曜名作劇」なるほど探訪、著名人の連載エッセーなど満載。

学術・文化

くらし・家庭

趣味からお悩み相談まで

「高尾山の植物 12カ月」「おやつ時間」記者コラム「驚やすめ」がスタートします。火曜掲載の教育エッセーは、「ドキュメンタリー映画「まなぶ 通信制中学」の監督、太田直子さん。金曜大型連載「塩の魅力」のルネコディネーター・青山志穂さんで、あなたも塩博士に。お手頃な材料がおしゃれな雑貨に変身する「簡単カフェ風手作り雑貨」(吉沢深雪さん)。法律・税金から医療・教育まで「電話相談」で多様なお悩みに答えます。

くらし・家庭

スポーツ

心がほっこり

「スポーツ面の記事は心がほっこりさせられます。先日、読者からこんなうれしい感想をいただきました。『スポーツ面では今後も「フェアプレーの風」「感動」などのコラムや選手らのインタビューで、皆さんの心に響く記事をお届けします。』

テレビ・ラジオ

充実の執筆陣

「番組解説欄で、見どころについてコメントしてくれているので、録音するのに役立っています」。テレビ・ラジオの執筆陣は、作家や詩人、評論家、ジャーナリスト、テレビ局の元番組制作者など多彩です。放送関係者からも「ほかの新聞が取り上げない、小さな番組にも目配りをしていて、ありがたい。充実している」と、高い評価をいただいています。

スポーツ

新コラム「校閲の目」

春の新企画「校閲の目」を始めます。言葉を中心にしたコラムです。「しんぶん赤旗」が少しでも身近になればと考えています。まずは校閲の自己紹介です。日本の新聞社に「校閲部」が誕生したのは、今から89年前「赤旗」が創刊された1928年のことです。当時は天皇絶対の時代でした。ある新聞社が天皇の次女久宮の訃報で「久宮並に皇后宮薨去(こうきょ)」と記したため大騒動になりました。

テレビ・ラジオ

文字が読みやすくなります

潮流 国会の証人喚問
えは、流行語にもなった有名なフレーズがあります。「記憶にございません」。戦後最大の疑惑、ロッキード事件で喚問された小佐野賢治が答弁「免しました▼黒霧やま」

潮流 国会の証人喚問
えは、流行語にもなった有名なフレーズがあります。「記憶にございません」。戦後最大の疑惑、ロッキード事件で喚問された小佐野賢治が答弁「免しました▼黒霧やま」

新 4月1日付から、文字がこれまでよりも太くなります。全紙面でくっきり読みやすくなります。

旧 米予算教書 米大... 要会計年度の... 期的な経済... 営業も盛り込みます。... (経済報告)と並び... (2018会計年...)に... 米大... 要会計年度の... 期的な経済... 営業も盛り込みます。... (経済報告)と並び... (2018会計年...)に...

囲碁・将棋

新人王戦は 棋士の登竜門

政党機関紙で囲碁・将棋のプロ棋戦を主催しているのは「赤旗」だけです。「赤旗」主催の新人王戦は「一流棋士への登竜門」の評価が定着。参加するプロ棋士が対局。将棋では、話題の中学生棋士・藤井聡太四段のほか、現在棋王のタイトルに挑戦中の千田翔太六段も出場。熱戦の様子は、囲碁将棋欄の観戦記でお楽しみください。

そこでミスはまかりならんと、「校閲部」が誕生したのです。校閲部はミスとは切っても切り離せない関係です。「赤旗」は戦前、命がけの印刷、配達でした。当時はガリ版の手書きです。その紙面を見て驚いたことがあります。1ページ全面が「正誤表」、今という「訂正」が載っています。

「官犬は官憲「当然は当然」など手書きにもかかわらず、変換ミスも。昔からミスに悩まされる苦労がしのべれます。今も悪戦苦闘の毎日ですが、現場からの苦闘ぶりをお届けします。ご期待ください。(河原哲也)

転勤・転居先でも
引き続き
ご購入ください

